

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	23-067	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳) Cohort effects of women's mid-life binge drinking and alcohol use disorder symptoms in the United States: Impacts of changes in timing of parenthood 米国における中年女性の過度飲酒とアルコール使用障害症状のコホート効果：親になる時期の変化への影響		
執筆者 Adams RS, McKetta SC, Jager J, Stewart MT, Keyes KM.		
掲載誌 Addiction. 2023 Oct;118(10):1932-1941. doi: 10.1111/add.16262.		
キーワード	PMID	
アルコール、アルコール使用障害、過度の飲酒、出生コホート、親子	37338343	
要 旨 <p>目的： 中年女性における飲酒が増加しており、その背景には親になる時期や文化的規範の変化などの社会的変化が影響している可能性がある。本研究は米国の中年女性の過度の飲酒[過去 2 週間の過度の飲酒と過去 5 年間のアルコール使用障害(AUD)症状]と初めて親になる年齢の関連を調べること、またこれらの関係に影響を及ぼす顕著なコホート効果があるかを確認することを目的とする。</p> <p>方法： 本研究は、米国の高校生を対象とした物質使用行動調査である Monitoring the Future 調査を用いた後ろ向きコホート研究である。1976 年から 2002 年の高校 3 年生に該当し、1993 年から 2019 年の間に 35 歳時調査を完了した 9988 名の女性を対象とした。過去 2 週間の過度の飲酒と過去 5 年間の AUD 症状、初めて親になる年齢は自己申告とした。</p> <p>結果： 2018-19 年の (35 歳時) 調査に参加した女性は、1993-97 年の調査に参加した女性と比較して、過度の飲酒リスクが高く (オッズ比[OR]=1.73、95%信頼区間[CI]=1.41-2.12)、AUD 症状も高かった (OR=1.51、CI=1.27-1.80)。全コホートを通じて、親になる時期と過度の飲酒の結果には逆相関が見られた (例えば子供がいない群では、18 歳から 24 歳の間に子供を持った群を比較した場合に、過度の飲酒 OR の範囲：1.22~1.55 であった)。さらに、最近の調査では初めて親になる年齢が遅くなる傾向が見られ (1993~1997 年のコホートでは女性の 54% が 30 歳未満で子供を産んでいたのに対し、最近の 2 つのコホートでは 39%であった)、過度の飲酒リスクが最も高いグループの規模が大きくなった。</p> <p>結論： 米国では、過度の飲酒リスクが最も高い女性のサブグループが拡大しており、これは初めて親になる時期が遅くなっている影響を受けている可能性がある。</p>		